

「ひとくら里山楽校」の活動について

理事長 山本 裕治
(NPO法人 ひとくら里山楽校)

■「ひとくら里山楽校」とは

「ひとくら里山楽校」は里山文化を継承することを目的に昨年8月20日に兵庫県の認証を受けて設立されました、生まれたばかりのNPO法人です。兵庫県立一庫公園をフィールドに活動しています。

一口に里山文化の継承と言っても非常に奥が深く、将来へのスパンの長い取り組みです。北摂の豊かな自然を次世代に引き継ぐために、また、里山の豊かな環境の中で子供達の健全な心と身体が育まれるように、兵庫県立一庫公園を中心にして、里山の環境保全や里山文化の継承による地域の活性化に向けた様々な活動（里山の環境学習、北摂の里山情報の発信など）を展開しています。誰もが自然と共生することの大切さを考え、次世代を担う子供たちが生き生きと暮らせる社会の実現を目指しています。

■「ひとくら里山楽校」の活動実績

*一庫公園での植物調査

一庫公園の里山の現状を明らかにするために、公園内の植物の分布を調査し植物目録と分布図を作成しています。

また、絶滅危惧植物のエドヒガン（ソメイヨシノの母種）の生態や生育環境などに関する調査も行っています。この調査にあたっては、ひとくらの石田研究員、黒田研究員にも御協力を頂きました。

今後も調査を継続し一庫公園樹木図鑑が出来るようにと考えています。

クヌギ林の再生も計画的に出来るように植物調査を行い、里山の景観を再現することも目指しています。



*里山環境体験学習

一庫公園で、伊丹市立鴻池小学校3年生を対象とした環境学習プログラムを実施しました。

一庫公園の野草を利用し野草茶を作りました。柴を調達する班、茶葉を採集する班、火をおこす班に分かれ、作業を分担し活動しました。その際にスタッフリーダーから子供達に植物や里山の環境の大切さや公園内のクヌギ林の再生について説明をしました。後日、子供たちからスタッフリーダーにお礼のお手紙を頂きました。

*黒川里山まつり

川西市黒川で行われた「黒川里山まつり」に参加しました。



一庫公園で活動する4つのグループが出店しました。

- ・ひとくらクラブは炭火を用意し手巻き焼きパン（皆さんに自分で焼いて頂きました）、かぼちゃスープ、ポテトサラダ、焼きリンゴで御持て成しをしました。
- ・青空クラブはマタギ笛のクラフトをスタッフの指導のもと、皆さんに作って頂きました。
- ・きららの森キッチンは一庫公園で野草を採取し、野草茶と芋饅頭で御持て成しをしました。
- ・草木染工房は活動の作品を展示販売しました。

*クヌギの伐採（台場クヌギの育成）

茶道の道具炭として有名な「一庫炭」をつくるために、また、台場クヌギを育てるため、年次ごとに台場クヌギの成長が観察できるエリアでクヌギを約30本伐採しました。伐採作業は、今も一庫炭の生産をしておられる今西さん親子にお願いしました。伐採したクヌギの搬出はボランティアの方を含むみんなで行いました。



*一庫公園ピクニック

川西市清和台地区コミュニティ推進協議会福祉部会と協力し、障害のある方と福祉部会との交流会「一庫公園ピクニック」を実施しました。

■「ひとくら里山楽校」と一庫公園で一緒に活動しているグループ

*ひとくらクラブ

14年度からはじまった「一庫炭を焼こう！」のイベントをきっかけに持続的に炭焼きを続けていくには森と山とどう向き合っていけばよいのか…樹木調査や自然観察会に木工クラフトやつるかご編み、野外料理と「学び・楽しみ」を通じた一庫ならではの森との付き合い方を模索中です。

また、16年度からは、利用者と公園管理者で構成される一庫公園管理運営協議会においてまとめられた「自然観察の森の望ましい利用と管理のあり方」の方針にもとづき、園内のクヌギ林の管理や生物多様性・花木を活かした森づくり活動を定例でおこなっています。

*ひとくら青空クラブ

おとなには誰でも小さい頃の楽しい思い出があります。一庫公園は美しい公園です。子供たちにここで楽しい思い出を残してあげたい。「青空クラブ」はメンバーのこんな想いで生まれました。子供が主役です。「体を使って楽しむ」「自分たちで作る」「素材は身の回りのもの」「なかなか体験できないこと」などがクラブの運営方針です。

*きららの森キッチン

一庫公園周辺は日本一の里山を背景に、炭焼きをはじめとする伝統の生活文化を伝える素地がたくさんあります。山菜、柿、野いちご、山桃、栗、どんぐりなど、食べて楽しめる自然もいっぱい。ダムを守るために無農薬で維持されているというのも魅力です。

そこで採れる野生の植物を、採取し、調理し、食べることで、自然とともにある私たちの生活を感じ、環境の大切さを学びましょう。歩いて、観て、聴いて、匂って、触って、味わって、五感をフルに使って自然と触れ合う。こうして生き生きと楽しく過ごした経験の中から、子どもには、生きた知恵を獲得してもらいたいものです。

自然環境教育は人間教育と切っても切り離せません。今、子どもたちに最も必要なことはこうした生きた知恵を学ぶための体験なのではないでしょうか。

* 草木染工房

ほとんどの者が初心者で、一部の経験者と本が頼りですすめてきました。どんな染料でも手に入るこの頃だけど身近な日頃親しんでいる草木をできるだけ使うようにしています。

色褪せたシャツや身につけるには落ち着かなくなった帯揚げや半襟など時には新しい布をあーしてみたりこーしてみたりで「あら素敵」となることも。ならなければ又染め重ねて素敵を探しています。草木に潜む思いがけない色の出現を毎回飽きることなくドキドキワクワクしながら楽しんでいます。公園内の染料植物マップも作りたいですね。

ひとくら里山楽校のホームページ

www.hitokurascape.com